

1. 評価結果概要表

作成日平成20年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3771600610
法人名	医療法人圭良会
事業所名	グループホームこんぴら
所在地	香川県仲多度郡琴平町167番地 (電話)0877-73-0811

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成20年11月23日
評価決定日	平成20年12月11日

【情報提供票より】(20年10月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	3ユニット
利用定員数計	27人
職員数	19人
常勤	19人
非常勤	0人
常勤換算	6.3人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	5階建ての2階～4階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,600円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	24名	男性	5名	女性	19名	
要介護1	5名	要介護2	10名			
要介護3	4名	要介護4	2名			
要介護5	3名	要支援2	0名			
年齢	平均	86.5歳	最低	77歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	森内科医院 永生病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周辺は住宅や商店街があり、散歩や地域とのかかわりにおいては立地条件に恵まれている。利用者の個別性、生活歴を大切に取り組んでいる。理事長の発案により3年前から誕生日に「記念撮影」を写真屋さん依頼している。そのためのために服装を考える、美容院に行くなど楽しみにしており、今では家族写真が増えてきている。誕生日を契機に家族との交流も深められている。職員の育成については気づきやスキルアップを目指し、院内学会が実施し、職員が自ら取り組んだ成果を発表する機会となり、お互いの研鑽の場として成果をあげている。各ユニットごとに管理者を配置し、管理者を中心に職員が一体となってケアに取り組んでいる。また、三人の管理者が一丸となってケアの質向上に取り組んでいる。今後益々の発展を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	緊急時の対応について外部の研修を受講したり、月1回のミーティングでホーム内の勉強会を継続している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	今回の自己評価についても職員全員各々が記入し、まず管理者がまとめ、さらに再度話し合いまとめた。職員一人ひとりが評価により気づき、今後の取り組みなど考える機会となっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	前回の評価で災害対策について地域と共に取り組むことの必要性が指摘され、運営推進会議で検討し実施した。運営推進会議の在り方についても検討し座談会形式を取り入れ、話しやすい場づくりをしている。また、認知症についての知識を得たいとの希望が出されており今後取り組む予定である。これを契機に認知症の正しい理解についての広がりを期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	「御家族伝言用紙」により確実に家族に伝えられるよう取り組みをしている。月に1回請求書の手渡しをしており、その折家族の意向や希望を聞いたり、日頃の様子を伝えている。年に1回「家族会」を実施し、管理者や、担当職員と面談方式で行われている。
重点項目④	日常生活におけ地域との連携(関連項目:外部3)	商店街の散歩、買い物、外食など日常生活の中で地域との交流ができています。日々の食材についても近くの「八百屋」「魚屋」に注文し配達してもらっている。ホームの行事に地域の人、社会福祉協議会のデイサービス利用者を招待したり、地域の祭りに参加するなど積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的温かさ、個人の尊厳を大切に、豊かな生き甲斐のある共同生活が送れるよう、家族の一員として介護技術を行います」を掲げ日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、年間の目標を立てている。今年度は①運営推進会議のメンバーの拡大、②職員の教育・学習 ③入居者の健康増進とし、この目標達成のために各職員が個別に行動目標を立てて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に商店街に散歩に出かけ、地域の人たちと触れ合っている。ホームの行事案内についても、職員が一軒一軒配っている。社会福祉協議会のデイサービス利用者との交流も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価の記入をし、管理者を中心に検討をまとめている。各自が評価することにより、気づき、今後の課題を考える機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のあり方も検討しており、意見を出しやすく座談会形式を取り入れており、家族の参加も多い(7~8人)。	○	運営推進会のメンバーの拡大を図り、地域の中での理解をより深めていきたいという目標を掲げて取り組んでいる。また、認知症の勉強をしたいとの希望があり、これを機に今後、広く認知症を正しく理解してもらえるよう知識の普及に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外の交流は少ない。介護支援専門委員連絡会には参加している。会議の参加者をできるだけ多くしたいという意向をふまえて、年間2回夜間開催を計画している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>独自の「御家族への伝言用紙」を作成し、職員のメモとして活用し連携を図っている。職員の異動については来訪時の紹介は勿論のこと広報誌でも紹介をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議への出席、年に1回「家族会」で管理者・担当職員で面談方式で意見、希望などを聞き、ケアにつなげている。家族アンケート等(例:「接遇について」)を実施し改善につなげている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動については、極力少なくするように努めている。法人のディサービス、療養病棟などからの異動はあるが、認知症についての対応は経験している職員である。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数などをふまえた研修受講を考慮している。新人職員については経験2～3年の職員が経験を生かして指導に当たっている。目標管理シートを作成しており、これに基づく指導も行われている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>平成17年度相互評価をきっかけに、近隣のホームとの交流が行われている。同業者として共通の悩み、課題について検討を重ねてサービスの向上に取り組むたいと考えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、外出時に自宅に寄る、外泊をするなどしながら馴染んでもらえるように、利用者個々に応じて対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と共に生活をする事をモットーに日々取り組んでいる。入居者から料理のこと、すりこ木の使い方、地域の風習、祭りごとなどアドバイスをいただき、支えあいの関係を大切にに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴、生活パターンを大切に対応している。朝の起床時間もまちまち。自宅で料理をしていなかった人はしないが、一人暮らしをしていた方で、男性が手伝って料理を一緒にしているという光景が見られた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、本人の意向を必ず確認しプランを立てている。月に1回請求書を手渡すシステムをとっているため、そのつど状況を報告し、希望・意向の確認ができています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月月末にモニタリングが実施しており、計画、実施状況の記録用紙を家族に一部渡している。「御家族へ」という欄も設けており、家族から現状が良く分かって喜ばれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠い人には入居者の居室に簡易ベッドを入れ宿泊も可能にしている。自営業の人には散歩に出たときに自宅を訪問する機会を持ち、家族にゆとりがあるときには休んでいくという時間を持ったり、定休日に家族と外食をしたり、衣替えのときには送迎をしたりしている。地域の人であるからこそ、こうした柔軟な対応ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけの病院については家族が定期受診に対応している。日々の健康管理については法人の病院が対応しており、歯・眼・耳鼻科についてはホームで対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の説明により、本人・家族の希望に沿うように対応している。入居時に「重度化した場合の指針」に基づき説明がされており、職員全員がこの指針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇、マナー(例:言葉掛け、服装)の向上などについての勉強会をしている。また、ミーティングを年間18回計画的に実施し取り組んでいる。入居者の誇り、プライバシーを尊重した対応をしている。(職員は常に目線で対応している)		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば入浴についても時間は決めていない。朝入りたい人、就寝前に入りたい人など希望に沿った支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものについては個々に対応している。(鶏肉が嫌いな人には卵どんぶり) 食事の写真を撮り、メニュー表を作り、どれが食べたいか希望を聞いて対応したり、メニューの変更などをし支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	制限は特に設けておらず、1日に2回入りたい人など希望に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人のできること、例えばコルセットをつけて一人では歩行できない人に職員が介助しながら洗面台のタオルの交換をしている。リハビリを兼ねて小さい事でもできるという支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の制限はない。希望に応じて商店街の散歩、買い物、公園、神社、ドライブなど支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けるということについて、立地条件からやもえないかと考えられる。玄関、エレベータについては自由に入れるし、各ユニットの入り口にかぎがかかっており、インターホーンにより開けてもらえるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防火訓練を実施している。今年度は地域を含めて訓練が行われた。2～3カ月に1回職員で避難誘導、連絡、連携の取り方などのシュミレーションをし確認しあっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みの把握、嫌いなものへの対応、水分補給など個々に支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については、食堂は明るく、ゆったりしており、和室(居間)には中央に掘りコタツがあり寛げるようになっている。和室の段差が腰掛けて洗濯物をたたむ談話の場所として使われている。トイレがユニットに4箇所在り、2部屋に一つという配置で、近くにトイレがあるという安心感につながっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室でテレビを見たり、書道をしたり、個別性を尊重した対応できている。		